

# せたがやの文化財

No. 025

編集・発行

世田谷区教育委員会事務局  
生涯学習・地域・学校連携課文化財係  
〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27  
Tel 03-5432-2726 Fax 03-5432-3039  
<http://www.city.setagaya.lg.jp/>  
発行日 平成25年3月29日  
再生紙を使用しています

## 新しく登録・指定された文化財



区指定有形文化財（考古資料）  
奥沢台遺跡出土の注口土器

### ■解説・注口土器

注口土器とは、縄文時代後期から晩期（約4,500～2,500年前）にかけてみられる特徴のある土器で、容器の側面に液体を注ぐための細長い口がついた、現代の土瓶や急須の形をしています。どのような液体を入れて使用したのかはわかりませんが、内側が丁寧に仕上げられていることから、実用品と考えられます。（3ページもご覧ください）

区指定有形文化財（歴史資料）  
旧荏原郡用賀村名主  
飯田家関係史料



区指定有形文化財（史跡）  
桂太郎墓



区登録有形文化財（建造物）  
旧清水家住宅書院



区登録有形文化財（歴史資料）  
有栖川宮幟仁親王原書  
「攻玉」木額



区登録有形文化財(建造物)

きゅうしみずけいじゅうたくしよいん  
旧清水家住宅書院

1棟

登録年月日 平成25年3月29日



撮影 清水 襄

正面外観

旧清水家住宅書院は明治43年から翌年（1910～11）頃、中根岸（現在の台東区根岸3丁目あたり）にあった清水家屋敷内に離れとして創建されたと伝わります。後、大正8年（1919）区内瀬田に構えた同家屋敷に主屋と共に移築されます。屋敷は国分寺崖線を含む斜面地で、台地上に建物を配置し斜面を庭園としていました。

岡本・瀬田・野毛辺りは明治末から昭和初期にかけて、国分寺崖線を利用した邸宅がいくつも営まれました。

書院は、昭和54年（1979）に解体され区が部材を保管していましたが、本年（仮）区立二子玉川公園・帰真園内に移築復元しました。移築復元には清水建設株式会社が社会貢献事業として設計・工事費用の全てを負担しました。建設においては



細部にわたり日本の伝統文化の継承にご尽力いただきました。

建物は十一畳の書院の間と長五畳の次の間に鉤の手に縁がまわる小規模な間取りです。

書院の間には部屋飾りとして床構えをしつらえています。床脇の襖は金箔の地に葛と藤が描かれる華やかなものでこの書院の特徴になっています



撮影 清水 襄

床脇の金襖

— 旧清水邸書院の利用案内 —

開放日 毎週日曜日（12月29日～1月3日は除く）  
午前9時～午後4時30分  
（11月～2月は午後4時まで）

入館料 無料

所在地 玉川1-16（仮）区立二子玉川公園 帰真園内

※公園内では通称で旧清水邸書院と呼んでいます。

※（仮）二子玉川公園は平成25年4月14日午後13時から開園します。

※詳しくは文化財係までお問い合わせください。



撮影 清水 襄

書院の間・次の間

## 区指定有形文化財(考古資料)

## 奥沢台遺跡出土の注口土器

1点

指定年月日 平成25年3月29日

所在地 宇奈根1-8-21  
宇奈根考古資料室

正面からみたところ

これは、奥沢台遺跡(奥沢6丁目付近)の「土壙墓」とよばれるお墓から出土した縄文時代後期(約4,000年前)の縄文土器で、注口部分は欠けていましたが、ほぼ完全な形をしています。

この形の土器が形を保ったまま出土することは少なく、区内ではこの他に1点が知られていますが、本例は把手ではなく、角状の突起が付けられていることが特徴です。

一寸法一

高さ 138mm (把手の突起まで)

最大径 167mm

## 区登録有形文化財(歴史資料)

## 有栖川宮熾仁親王原書

## 「攻玉」木額

1面

登録年月日 平成25年3月29日

所在地 中町2-29-1  
区立玉川小学校

「攻玉」の二字は、『詩経』の中の「他山の石、以て玉を攻くべし」という一節に由来しています。

本作は、有栖川宮熾仁親王が紙に揮毫した書(原書)を木額に写して刻んだものです。

一寸法一

縦 531mm、横 167mm、厚さ 51mm



表面

揮毫を依頼したのは、当時、等々力村戸長・豊田兵衛と、学校世話掛を勤めていた豊田周作でした。共に玉川小学校の設立と運営に尽力しました。額の裏面には、明治15年(1882)4月3日の日付と、揮毫を依頼した二人の名が刻まれています。

小学校に残る明治時代の写真には、額の前で整列する生徒たちが写っています。この額が代々受け継がれてきたことがわかります。



裏面部分拡大

区指定有形文化財(歴史資料)

きゅうえいばらごひょうがむらなぬし  
旧荏原郡用賀村名主

いいたけかんけいしりょう  
飯田家関係史料

1,169件

登録年月日 平成25年3月29日

所在地 世田谷1-29-18

区立郷土資料館(寄託品)

飯田氏は、菊池氏を名乗り後北条氏に仕えていましたが、16世紀の末ころ、用賀に来て村の開発にあたったと伝えられます。

飯田家は、元文4年(1739)から二代にわたり、彦根藩世田谷領代官を勤めますが、天明6年(1786)年貢未進で失職し、闕所・所払いとなりました。当時すでに分家していた当主の弟が跡を継ぎ、村の名主を勤めました。

飯田家には、用賀村の古文書、村絵図などが遺されたほか、幕末期に彦根藩への御用金調達や、ミニエール銃献上に関する史料もあります。

また、明治画壇の重鎮・菊池容齋と飯田家は婚姻関係にあったことで、容齋の描いた絵画も遺っています。

用賀村の古文書は飯田家のほかにはほとんど確認されていないため史料的价值が高いこと、さらに絵画などから、近世上層農民の文化嗜好や豊かな生活を伺い知ることができます。

菊池容齋筆 容齋室コウ夫人像



菊池容齋筆 林和靖図

林和靖(967-1028)は中国・北宋時代の詩人で、西湖の孤山に生涯独身で隠棲し、梅300本を植え、二羽の鶴を飼い、風流三昧の生活を送った。

## 区指定史跡

## 桂 太郎墓

## 1基

指定年月日 平成25年3月29日

所在地 若林4-35

桂太郎は弘化4年（1847）年、長門国萩町（現・山口県萩市）に生まれました。長州藩士として幕末の諸戦に参加し、維新後は近代的な軍事制度を学ぶためドイツに留学しました。陸軍大臣に就いたのちの明治34年（1901）には第一次桂内閣を組閣し、明治37年（1904）の日露戦争の開戦を決しました。三度目の組閣後まもない大正2年（1913）10月10日に急逝しました。享年66歳。遺言により松陰神社に隣接するこの場所に葬られました。

桂太郎は、歴代内閣総理大臣の中で通算在任期間が最も長い政治家としても知られています。



桂太郎肖像（国立国会図書館ホームページより転載）



一寸法、銘文—

墓石総高 2,318mm、

正面銘文 「公爵桂太郎之墓」 裏面銘文 「大正二年十月十日薨去」

## 文化財保護強調週間行事

11月1日から7日は文化財保護強調週間です。この期間中は、文化財に親しむことを目的に、毎年催しを行っています。

### ■写真展 国指定史跡・彦根藩主井伊家墓所

近江国の井伊家菩提寺～清涼寺・永源寺～  
日にち 平成24年10月30日(火)～11月29日(木)  
会場 教育センターロビー (弦巻3-16-8)  
世田谷区内の豪徳寺と共に国史跡に指定された滋賀県内の彦根藩主井伊家菩提寺の様子を、写真で紹介しました。



### ■第5回 野毛古墳まつり

日にち 平成24年10月20日(土)21日(日)  
会場 区立玉川野毛町公園(野毛1丁目)  
野毛大塚古墳解説、古代食試食、  
ミニ土器づくり、野毛古墳群散策



野毛大塚古墳の解説

### ■岡本かいわいの歴史的建造物めぐり

日にち 平成24年11月2日(金)3(土・祝)  
会場 旧小坂家住宅(瀬田4-41-21区立瀬田四丁目広場)、区立岡本公園民家園(岡本2-19-1)など。会場となる歴史的建造物のクイズに答えながら歩きました。

### ■第7回 世田谷区遺跡調査・研究発表会

日にち 平成24年11月17日(土)  
会場 教育センターぎんが(弦巻3-16-8)  
講演 はにわの話～線刻のある“はにわ”を中心に～  
講師 昭和女子大学教授 小泉玲子



## 文化財補助事業

### しりょうこういんしゅういん ■勝光院書院改修工事




工事を終えた書院全景

区指定有形文化財の勝光院書院は文政6年(1823)に建てられた建造物で、吉良家ゆかりの寺院、勝光院の書院として現在も使われています。修復から30年余を経過し、近年茅屋根の傷みが激しかったため、茅の全面葺き替えを中心とした改修工事を補助事業費で行いました。

## せたがや文化創造塾

## ■秋の講座

恒例となりました、せたがや文化創造塾秋の講座は、下記の内容で行われました。次回の実施については、区のおしらせ「せたがや」、区ホームページでご案内いたします。



せたがや  
文化創造塾

## 平成24年度実施講座

| 講座名                     | 講師                           |
|-------------------------|------------------------------|
| 二都物語 — 奈良・京都の美術案内番外篇 —  | 星山 晋也(早稲田大学名誉教授)             |
| 黒船来航と世田谷領               | 奥田 晴樹(立正大学大学院教授)             |
| 縄文時代中期大規模環状集落の盛衰        | 山本 暉久(昭和女子大学大学院教授)           |
| 民具を活かす — 地域住民と学校を繋ぐモノ — | 石野 律子(神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員)   |
| 世田谷近代建築の文化財的価値          | 堀内 正昭(昭和女子大学大学院教授)           |
| 世田谷区域の講行事               | 田中 宣一(成城大学名誉教授)              |
| 唐絵(からえ)の鑑賞              | 竹内 順一(永青文庫館長)                |
| 歴史散歩 喜多見の歴史と文化を探る       | 稲葉 和也(建築史家) 星山 晋也(早稲田大学名誉教授) |

## 宇奈根考古資料室(宇奈根1-8-21)特別展示

## ■「大海進時代の鎌田ムラ」

砧南小学校校庭の縄文時代前期遺跡

会期 平成24年6月1日(金)～30日(土)

平成23年度に行われた鎌田遺跡(鎌田4丁目付近)の発掘調査では、砧南小学校の校庭から、約6,000年前の縄文時代の集落跡や石器、縄文土器が出土しました。宇奈根考古資料室展示室の一角にこの時見つかった土器を自由に手にとってみる、特設コーナーを設けました。



第5回 宇奈根考古資料室 特別展示 入場無料  
大海進時代の鎌田ムラ  
砧南小学校校庭の縄文時代前期遺跡  
会期：平成24年6月1日(金)～6月30日(土)  
会期中は休館  
時間：10時～16時  
会場：宇奈根考古資料室 世田谷区宇奈根1-8-21  
TEL. 03 (3749) 1212 FAX. 03 (3416) 4807

## ■「これも遺跡！」— 軍事遺跡と古墳出現前夜の北沢 —

会期 平成25年2月1日(金)～28日(木)

区の北東部に位置する騎兵山遺跡やその周辺には、明治時代に騎兵第一連隊など旧日本陸軍の施設が造られました。この遺跡から既舎、防空壕(待避壕)などがみつかっています。今回の展示では、軍事遺跡から出土したラッパなどを展示すると共に、北沢川沿いの台地上にある、弥生時代から古墳時代の遺跡から出土した土器などを紹介しました。



第6回 宇奈根考古資料室特別展示 入場無料  
これも遺跡!  
— 軍事遺跡と古墳出現前夜の北沢 —  
会期：平成25年2月1日(金)～2月28日(木)  
11時～16時(休館日：2月23日)  
時間：10時～16時  
会場：宇奈根考古資料室 世田谷区宇奈根1-8-21  
TEL. 03 (3749) 1212 FAX. 03 (3416) 4807

# せたがやの文化財

No.025

|                  |   |
|------------------|---|
| 新しく登録・指定された文化財   |   |
| 旧清水家住宅書院         | 2 |
| 奥沢台遺跡出土の注口土器     | 3 |
| 有栖川宮熈仁親王原書「攻玉」木額 | 3 |
| 旧荏原郡用賀村名主飯田家関係史料 | 4 |
| 桂太郎墓             | 5 |
| 平成24年度事業報告       |   |
| 文化財保護強調週間行事      | 6 |
| 文化財補助事業          | 6 |
| せたがや文化創造塾        | 7 |
| 宇奈根考古資料室特別展示     | 7 |
| ゲストティーチャー・学校展示   | 8 |

## 平成24年度事業報告



土器を前に解説をする学芸員

## ゲストティーチャー・学校展示

世田谷区では、郷土の地理的、歴史的な特徴を理解して大切に思う心を育てる学習に取り組んでいます。

歴史学習の新たな試みとして、学校の近くにある遺跡発掘を担当した学芸員が、ゲストティーチャーとして小学校へ出張し、出土した土器・石器に触れて、体で感じる授業を行っています。

学校で学ぶ「歴史」は、先生が教科書や副読本などに掲載された写真・イラストを使っ

ての授業ですが、このときの児童たちは、いつもは触れることができない本物の土器を手にとって、その重さ・軽さ、石器の持ち方、ツルツル・ザラザラの手触りを体感していました。中には、「石器を持ったとき、思った以上に軽かった。固い木の実を上手にわったり、昔の人は身近な物をうまく使って暮らしていたんだなあと思った」との感想を寄せる児童もいました。



校内に設けた遺物展示